opusdei.org

聖ホセマリア・エス クリバーの列聖5周年 記念

5年前の2002年10月6日、ヨハネ・パウロ二世教皇様は、世界中から集まった様々な人々を前に、オプス・デイ創立者ホセマリア・エスクリバー・デ・バラゲルの聖性を宣言されました。

2007/10/06

「愛徳の輝き」

5年前の2002年10月6日、ヨハネ・パ ウロ二世教皇様は、世界中から集 まった様々な人々を前に、オプス・ デイ創立者ホセマリア・エスクリ バー・デ・バラゲルの聖性を宣言さ れました。そしてその翌日、列聖式 参加者のために聖ペトロ広場で催さ れた一般謁見において、聖ホセマリ アを「日常生活の聖人」と定義され ました。これには、この忠実な司祭 の教えの核心が要約されています。 聖ホセマリアは、家庭生活や職業、 社会的な関わりなど、日常のあらゆ ることがらに携わるにあたり、神を 見つめ、隣人を助けることを望んで いるなら、すべてが天国への道にな ると説いていました。

私は、神の賜物だと考えているのですが、四半世紀を聖ホセマリアの傍らで過ごし、信仰と日常生活を切り離して考える多くの人にそれを改めさせようと心を砕いていた聖人の姿を目の当たりにする幸運に恵まれま

した。1928年10月2日、オプス・デ イが始まって以来、気高い人間的な 事柄は全て神が望み、人となられた イエス・キリストがなされたもので あるから、聖性の道になり得ると教 えました。「ごくありふれた状況の 中に聖なること、神的なものが隠れ ています。そして、それを見つけ出 すのは、私たち一人ひとりの責任で す」(1967年10月8日の説教「愛すべ き天地 |)。この事を神学的なレベル で、あるいは実際的な勧めの形で、 個人的な会話や群衆を様々な職場や 社会環境の人たちに伝えました。ち なみに、引用したばかりの説教は、 ナバラ大学のキャンパスで2万人余 りの人々を前になされたものです。

信仰と日常生活を融和させることは 愛の問題です。キリスト者が神への 愛を行動基準にするとき、自然に、 主を思いつつ活動を始め、続け、そ して終えることができるようになり ます。そうすると、工場や事務所、 図書館や研究所、工房や家庭が、創造主と被造物、つまり子供を限りるでは、つまり子供をされる神と、神に愛さるでは、るでは、ないるでは、なり、可様になり、可様になります。でではれていることを自覚である。ではれていることを自覚であります。

この教えは現代にも完全に当てはまては、イデオロギーを持っては、イデオは利益の不信感を持ち、他方では利益の不信感を持れた活動のでは、活動のでは、活動では、であるとは、でするとは、でするとは、「ないの人々の心配事を他人事と考えずの人の心配事を他人事と考えば、現代にも、は、実り自

らの問題とすること、また、隣人を赦し理解できること、言いかえれば、イエス・キリストと共にすべての人のために自己を犠牲にすることです」(『知識の香』158番)。

ベネディクト十六世教皇様が、最初 の回勅で思い起こさせてくださった ように、愛徳はキリスト者の生活を 根本的に定義づけるものです。聖ホ セマリア・エスクリバーの列聖5周 年にあたり、私は、オプス・デイ属 人区の多くの信者と協力者をも感慨 深く思い起こします。彼らは友人や 同僚と共に、五大陸の国々で愛徳に 根ざした社会活動や福祉活動に心血 を注いでいます。彼らは、ヨハネ・ パウロ二世教皇が列聖式の翌日の講 話で思い起こされたように、福音化 や最も貧しい人々のための人道的支 援を後押しした聖ホセマリアの寛大 な足跡をこのようにして辿っている のです。このような活動の幾つか は、聖ホセマリアが望んだに違いな

い形をとって、列聖式記念事業として発足しました。マドリードの「ラグナ福祉センター」や、サハラ砂漠地帯のアフリカ諸国の福祉活動を支援するための「ハランベー教育基金」などです。5年の間に、活動も軌道に乗り、運営者や利用者の中で日毎に実りが増えています。

とはいえ、キリスト教的愛徳を実行 するようにとの呼びかけは、福祉的 な活動に集中的に、あるいはそれだ けに携わっていない人にとっても急 を要することです。愛徳は理論では なく、日常生活における人間的な愛 情と結びついた行動です。聖ホセマ リアは言っていました。「神を愛 し、人間を愛するために、私たちは 二つの心があるわけではない。肉体 を持つ人間の哀れな心は人間的な愛 情を注いで愛するのだが、その人間 的な愛も、キリストの愛と結ばれる とき超自然の愛となる、その愛こそ は、他でもない、心の中に養うべき

愛、隣人の中に主のお姿を見つける 愛なのだ。」(『神の朋友』229番)

悲しむべきことに、家族や国家や国 際社会において混乱の多い時代で す。今、強調すべきことは、日常生 活における愛徳の実行であり、具体 的には赦しを乞い、赦しを受け入れ ることだと言えるでしょう。赦しこ そは、戦場の場を共生と連帯の場に 変えることのできる唯一の道です。 相互に許し合い、理解し合うこと は、確かに困難な道です。絶えずや り直すことが必要です。しかし、そ れは希望を強める道でもあります。 逆に、許し合う心を培わないなら ば、家庭の一致を保つことも、市民 生活において共同善のために働くこ とも、国家間に平和と喜びを植え付 けることも難しくなります。

その上、キリスト者にとって愛徳は 信仰を伝えるために最良の方法であ ると言えます。ベネディクト十六世

が「純粋かつ寛大なしかたで示され る愛は、最高の意味で神の証となる ことを弁えるべきです」(『神は愛』 31番)と教えておられます。福音化は 単なる知識の伝達ではありません。 信仰の宝は、個人的な出会いの後で 見出されることが少なくありませ ん。多くの人が、自由な雰囲気の中 で、キリスト者の愛情を感じてイエ ス・キリストに近づきます。こうい うことから、日常生活において具体 的に人を愛することは、互いに知り 合う方法であることが分かります。 それゆえ、福音宣教は、すべての人 を受け入れる心の広い人に固有な仕 事であると、聖ホセマリアは強調し ていたのです。

第二バチカン公会議は、現代の大きな過ちの一つとして信仰と日常生活の離反を上げています(『現代世界憲章』43番参照)。「日常生活の聖人」。聖ホセマリアの列聖から5年たった今、その取り次ぎを通して、

特にキリスト者を助けてくださるように、また私たちの心において神への愛と兄弟たちや全の人々に対する愛情がひとつになるように、神にお願いしたいと思います。日々のことがら一つひとつを愛徳の輝きで照らし出そうと熱望する私たちを支えてくださいますように。

ハビエル・エチェバリーア司教

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sheng-hosemariaesukuribanolie-sheng-5zhou-nian-ji-nian/(2025/12/19)